

---

# 般若

叶星

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

般若

### 【ZPDF】

Z0286F

### 【作者名】

叶星

### 【あらすじ】

「あらすじ」  
桜は愛する弥一の傍に居る為、色々なことを隠していた。勿論、「人切り」であつたことも隠していた。しかし、桜は愛する弥一を・・・

貴方を騙す「般若」でも、  
貴方の大切な人を殺した「般若」でも、  
貴方は、私を愛してくれますか？

桜は、己の膝の上で静かに眠る弥一といつ青年を愛おしげなまなざしで見つめる。

髪をさらりと撫でれば、僅かに身じろいで。  
それが可愛くて、堪らない。

しかし、桜には弥一には言えない秘密があった。  
それは、桜が人切りであること。

そして、弥一の大切な人を殺め、弥一の隣にいるということ。

「弥一・・弥一・・・」

絶えず、切ない気持ちになる。

赦されないことは、桜にも分かりきっている。

しかし、桜はそうまでしてでも、弥一に恋い慕つていた。

弥一は大商店の息子。

そうそう、逢うことも赦されないはずなのに、毎日のよつに会つて  
いる。

嬉しいのに、虚しい。

桜はいつも、心の片隅に想う虚しさに何故か分からなかつた。

(私はこれ以上望むといつの?弥一と傍に居れるの?..)

何を、求めているのか。

きっと気付いてはいけないものだと、本能的に察した。

気付けば、狂う。

駄目だ、と考えを振り払つよう口に首を振つた。

そのとおり。

「・・・・ん・・・・桜？」

「ゆつくり寝ていたのね。随分疲れてたの？」

「まあ、それなりに」

弥一は身を起こし、口付ける。

桜は嬉しそうに顔を赤らめて見せると、弥一はいつも笑顔になる。

それが、嬉しい。

弥一の細い腰に腕を巻くと、いつも抱き締めてくれる。

嬉しい、筈なのに。

何かが足りない。

何かが飢えている。

桜は、顔を顰めたが、更にその飢えは深くなつていく。

危険。

頭の中にはその信号しか響かなかつた。

弥一は謎めいた気持ちに包まれながら、桜の待つ部屋に足を勧めた。

何故か部屋に近づく毎に、血の匂いがした。

弥一は、何かに弾かれる様にその部屋に近づいた。

「桜・・・つづ・・・」

襖を開けると、ぐひゅぐひゅとう音が響く。

紅い。

弥一はその場から逃げ出したくなつた。

目の前に血塗れで残酷に微笑む桜が血を啜つていたのだ。

そくん」と體筋に走る悪寒

恐懼に駆られ、かにと尻に座り連れてしまつた。

跡一は逃げ出

引一回送り出でた。おじいちゃんが木の胴に抱き入った。

「弥一・・・誰よりも愛しい弥一・・・・弥一の命を頂戴?」「お・・・つ・・・う・・・つ・・・うめうつ!」

「嫌よ。貴方の

「な・・・つ」

「だから、…………ね？」

弥一の悲鳴が屋敷中に響いた。

「命をな  
女は、般若  
騙されてはいけないよ  
すぐに喰われてしまつから

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0286f/>

---

般若

2010年10月9日17時24分発行